

# といかん本音トーク

Vol.1



## 今後の地域行事に思うこと

・今年2年は新型コロナウイルス感染拡大で盆踊りなどを中止しているが感染拡大が終息したときに再開する気力が湧いてくるだろうか…

・参加者として楽しめる人はたくさんいるが運営側にまわれる人は限られている

・ひと昔前の住民が沢山いた時代の規模でイベントを実施するのは負担が大きすぎる。今の地域の規模に合わせて、無理なく楽しめる内容に変えて「やめることより続けられる方法」を考えていく必要がある。コロナで2年間で中止していることで良い転機でもある。

現在も継続している行事についてご意見をお聞きしました。

# 行事に燃えた問寒別

## といかん本音トーク

暮らしを支える地域活動の担い手が地域・行政共に減少が続いています。問寒別の昔と今の実情をお聞きし、今後地域を維持していくにはどうしたら良いかを定期的に話し合っていきます。

## 冬のビックイベント

### 雪まつり

懇談会では昔の問寒別の様子として今は開催されていない行事についてお聞きしました。

幌延で開催されていた雪まつりを手伝っていた有志が「これくらいなら問寒別だけでもできる。」と始めたイベントで、ジンギスカン、前夜祭、花火など年々スケールアップしていきました。雪像づくりは各地区、会社、サークル、学校の授業でも作っていたそうです。

20回続いた雪まつりは仕事や生活スタイルの変容、高齢化や担い手不足などの要因で約20年前を最後に終了したそうです。

他にも

・地区対抗運動会・麻雀大会・ビールパーティーなど多くの行事で盛り上がっていたと語られました。



1月26日開催

全3回-合計15名様のご参加をいただきました。

ご来場ありがとうございました。

また次回も参加いただければ幸いです。

幌延町企画政策課☆地域おこし協力隊

## これからの問寒別

地域活動維持に必要なことについて意見が語られました。



地元の子どものがのこるためには雇用の場が必要である農業、林業や建設業の雇用促進を考えるべき。

行事や地域活動の維持のためには担い手として外から人を呼び込むことが必要だ。そのためには雇用、住居、地域の受け入れ態勢を整えなければならない。

人口減少を前提とした暮らしやすいまちづくりのビジョン計画が必要である

特養などの施設に入所する前に離農した高齢者などが一緒に住める高齢者シェアハウスがあると良い。そこで交流や共同菜園などを通して健康寿命を延ばすことで地域活動にも参加できる。自宅を離れることで世代交代や新規就農にもつながる。医師や保健師も1ヶ所で複数人対応することができるのでは。

◆ 協力隊のつぶやき ◆

雪まつりや雪像の写真を1度見てみたいです。持ってる人いますか？